

# 22世紀という 未来を見据えて、 医師は今、どのように 働くのか？

編集 西崎祐史 志水太郎 上原由紀

目標が見つかりにくい時代でも  
明日への情熱のヒントが必ず見つかる、

## リアル・ドキュメンタリー開幕。

美田敏宏 NEJMに論文が掲載！ 世界で注目されるオンリーワンの熱帯病研究  
森本 剛 NEJMに論文が掲載！ 「人と違うこと」を恐れない強さ

真田昌爾 研究者と同じ目線に立ち、臨床研究を盛り上げたい  
野島正寛 医師として生物統計家として、オールマイティに臨床試験に関わる

新谷幸子 厚生労働省で働く  
清水 忍 医薬品医療機器総合機構（PMDA）で働く

鶴見晴子 日本医療研究開発機構（AMED）で働く  
尹 玲花 病院に行くことが少しでも快適であってほしい

岩山隆憲 とことんこだわってこそ形成外科  
古澤嘉彦 企業の立場での医療への貢献。メディカルエキスパートという働き方

莊子万能 境界線をいかになくしていくか  
竹田陽介 誰かと楽しい時間を共有するプロセスが、社会を変える力になる

迫田邦裕 社長と医師の二刀流  
長坂安子 女性医師の生きる道に正解はあるのか

小和瀬桂子 好奇心を優先して「フラフラする」ことが道を切り開く  
鈴木幸雄 自分にしかない、ユニークでやりがいのあるプロフェッショナリズムを作る

柴田綾子 「失敗」があなたのオリジナリティーを強くする  
パンダ校長 YouTuberは医師のキャリアになるか？

宮里悠佑 梅毒と私  
山岸文範 × 久保道也 北陸で情熱的な次世代を育てる  
田妻 進 × 草場鉄周 総合診療の未来への期待

福井次矢 パイオニアとしての歩み

田端 実 未来を明確に見据えた戦略を立てる

矢野晴美 情熱に従い、自分にしかできないことをする

堀越裕歩 「とにかくやってみる」チャレンジ精神の大切さ

岡和田 学 カンボジアのスタッフとともに「世界一信頼される病院」を目指して

和足孝之 なぜ、ただの総合診療医が医療の質と患者安全へ向かうのか

青木 真 × 藤沼康樹 × 内藤俊夫 情熱をもち続けるためのヒント

原田侑典 AIと協働して診断する時代に

渡部和巨 総合病院が見据える未来

小林正宜 卷き込む力と情熱が原動力

月永洋介 地域全体を病棟のように診る

林 寛之 迷った挙句の君の選択は常に正しい

坂本 壮 情熱的かつクールに

山口順子 「救える救急医」であり続けるために

齋田良知 前例の有り無しはかわらず挑戦する

福島理文 「循環器内科スポーツドクター」という働き方

平田幸一 次世代リードする世界で戦うためには

奥村恭男 未来を現す大きな未来

皿谷 健 平吸器"全身疾患の窓"

片岡仁美 開かれたドアにYes！



奥村恭男 未来を現す大きな未来

皿谷 健 平吸器"全身疾患の窓"

片岡仁美 開かれたドアにYes！

奥村恭男 未来を現す大きな未来

皿谷 健



# 22世紀を先取る医師45人の インタビュー・記事・コラムから、 何を考え、何を大事にし、 どう動いているのか、 リニアの表側も裏側も 多角的に紹介。 目標が見つかりにくい時代でも 明日への情熱のヒントが 必ず見つかる。

期しなかったことでした。

西崎 素晴らしい出会いだったのですね。

福井 加えて、循環器内科の五十嵐正先生は不整脈の専門家で、診療上の歯切れよさと、米国で学んだことのお話に魅了されました。五十嵐先生には仲人もしていただいて、日野原先生と並んで、僕にとっ



1976年 京都大学医学部卒業。聖路加国際病院で研究後、1980年 米国コロンビア大学ブルックセントラーリーチューフォー、ハーバード大学アンブリッジ病院でクリカルフェロー、1984年に帰国後は、総合診療やEBMの普及、我が國の公衆衛生大学院設立などに尽力し、教育者としても活躍。佐賀

西崎 心温まるお話ですね。英語は理屈が得意で本格的に学び始めたのですから、病院に留学する海外を目指されていたと思います。

福井 そうだと思います。当時の英語は全く書のみを使って勉強しましたので、英語はそれまでの抵抗はなかったのです。既にICU(国際医療家資格)を取得する必要がありましたから、東京で英会話を習いに行った時からです。

日野原先生から学んだ  
「人を見る」ということ

西崎 福井先生が修業医のときに、日野原先生が長だったようなご関係性ですか。

福井 日野原先生は聖路加国際大学医学部では臨床教育顧問として肩書を持ったと思います。日野原先生は40歳でいました。若い年齢でした。1年目の肩書だったのですが、すでに日野原先生には米国や欧州で留学した経験があり、本当に目から鱗の日々でした。病院での毎週火曜日朝8時からの顧問会議ですね。研修医が答えるくなるまでは泣くまで質問されてしまうからです。

西崎 難しかったというのですか。

福井 日野原先生がアドバイス



ケニアの孤児院で診療する筆者。

卒業生は、各地で小児の感染症科を立ち上げたり。各地域や全国規模のリーダーになったりとしています。

学会で小児感染症専門医制度を立ち上げることになり、新潟大学の斎藤先生のリーダーシップの下、世界で互角に渡りえるレベルを目指して、経験の積める施設だけが専門医修業ができるという制度設計にかかりました。ここで日本でもコンサルテーション型の感染症研究修業を軸に据えて、集約的な研修を基本としました。多くの施設で体制の変更が必要で、少なからず反対意見がありましたが、研修の質の確保は妥協しませんでした。

2022年で3回目の小児感染症の専門医試験が行

て妊娠予育中でも研修できるプログラムになりました。まだまだ理想とはいわないでいるが、それを高め時間は短く、というのが必要です。

私自身も20~30代の若いころはなかなか働き方を止めました。いつの間にか若い先生の多くの小児感染科の在り方としてみられるようになったので、私も自分が患者の先生に楽しそうをしているように映らないと(しないこと)です。小児感染症のロールモデルとはいって、若手が楽しく伸び伸びと、ワクワクする感染症を研修できる環境作りが、ひいては日本医療を良くしていくと思っています。

## 世界で活躍する医師になりたい!

**医師は何を考え、どう動くべきか。  
新しい時代のリーダーはどうあるべきか。**

未来を明確に見据えた戦略を立てる

海外留学で20代から心臓手術を執刀する機会を得て腕を磨き、大学院で公衆衛生学を学び、帰国後は最先端心臓手術の普及や画期的な診療システムの導入などで精力的に活動。

その目に映る未来とは。



田端 実 先生  
Minoru Tabata  
東京大学心臓血管科 主任教授  
走の病院 勝田循環センター客員 教授

Interviewer 西崎祐史 先生

TOPIC

やっぱり憧れ!  
スポーツドクターになりたい!

前例の有り無しに  
かかわらず挑戦する

リーダーチームドクター、  
さらに欧州のトップクラブにも帯同。

怪我の原因で、スポーツ活動を

続けれなくなるアスリートをなくすために、

再生医療にも取り組む。

齊田良知 先生  
Yoshitomo Saito  
順天堂大学医学部 スポーツ医学・再生医療講座 特任教授

2001年 順天堂大学医学部卒業。順天堂大学整形外科・スポーツ診療科入局。2015年イタリアInstituto Ortopedico Rizzoliにて専門研修。2016年より現職。現在、順天堂医院、常磐病院でPRP療法、東京国際クリニック、いわきFCクリニックなどでも診療を行う。

## Column

### YouTuberは 医師のキャリアになるか?



パンダ校長

バズ先生の  
病気の学校

もっと知ろう、病気のこと。

医師のキャラクター

</div